

儲け主義と筋肉質

権力者は支配欲が命？大企業に沿い、国民の命と暮らしを犠牲に、増税か料金値上げで、企業の責任を縮小する対応と権力に固守する姿勢に、政治家の無責任体質で、結局は虚偽無くして語れないのではないか。

今回の地震・津波・原発事故の大惨事における政府の対応

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年5月24日 (火) NO 195

地域から明るい未来を作ろう

応は、六十数年前の太平洋戦争の敗戦に匹敵、今も放射能を大気中と地下水脈に垂れ流しの状態です。

原発事故は国策が裏目となったものです。これほどの被害規模と想像力の貧困さはどうして起きたのでしょうか。

利権や天下りのためには、金権とマスコミの世論工作が絶対に必要不可欠でした。「イケイケ・みんなで渡れば怖くない」の歴代政権が国民の命を犠牲にした稚拙さが見て取れます。

議会制民主主義の限界、政治屋の無責任体質は制度上の問題でしょう。そんな政治屋を選んだ国民に責任があると政治屋議員は開き直るだけで、問題は何も解決しない。

政府は、愚かな民が招いた政府であるとすれば、私たちが招いた相応の政府です。

国民の退化と自明の政府

その為か開国から百四十年余り経過して、儲け第一主義に毒された結果、指導者も私たちも知識や人間性が問われています。

一番の問題は、我々は敗戦から独立の気概や覚悟を喪失したことでしょう。

明治初期、既にそれぞれが社会的役割にふさわしい知識や人間性を備えるべしと、すでに「学問のすすめ」で諭さ

れています。

悪い情報は隠匿するほどよ

戦後の対米従属政策の、国防を外国に依存する体制から、真に脱却するしか未来が無いように思えて仕方がない。

べし”の象徴でしょう。

結局は独立国としての覚悟と精神の筋肉質が、私たち一人々に問われていると思うのです。

幸いに日本はまだ落ちるところまで墮落していませんから、これから閉塞状態は一向に改善しないものと思われ

これまで権力から弾圧された人々の側に真理が有るわけでしょう。

この政権が、いつまでも継続すれば明るい見通しや希望が何処にあるのでしょうか。

頼る誰かは幻影、簡単に騙されるのです。

最悪の何物でもない。また以前の政権に戻ればより国家国民の衰退は必至でしょう。



人は面白いと思えば、何か行動を起こせます。

に従って行動すればいい。

かない。

行動してみても少しでも心が

人に決められたこと、命じられたことに従うだけでは機械

最後の最後まで、すべてを自分でコントロールしなければなら

動き、心から楽しいと思えば、多少の困難やトラブルがあっても諦めず

面白いから楽しむ面白から楽しむ

らないと考える必要はない。日々変わり、進化し

に努力がで

です。

実行する勇氣です。

きるものです。

自分に出来ることは、全てやってみよう。

新たな時代が巡ってきています。楽しいことが沢山有りそ

自分が良いと思える心

そしてその先は、天に任せるし

うではないか。

